

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/20～2018/09/30)

1. 勉学の状況

9月からイギリスのニューカッスル・アポン・タインという北の都市にあるノーザンブリア大学に留学しています。着いてすぐに Enrolment を終え、9月の最終週である1週間は induction week といって学部やコースごとの大規模なオリエンテーションや少人数規模でのチューターとのミーティングなどが行われました。

授業が本格的に始まるのは10月からということで、今回は私がノーザンブリア大学に留学するまでに行ってきたことに関して説明したいと思います。大学2年から派遣留学に行きたいと考えていたので、1年生の夏から IELTS の試験を受け出しました。英語圏への留学を希望していたので、IELTS や TOEFL の試験のスコアは必須というように考えていたのですが、協定校によってはスコアが必須でないところもあるようなので確認が必要です。私自身、IELTS の勉強を通して特にライティングのスキルを養うことができたので、勉強して損はないと思います。

次にノーザンブリア大学での授業についてです。コースや課程などによって方法は異なるかもしれないのですが、私の場合は日本にいるときに学校から送られてきたモジュールのリストを見て、自分の履修したい授業を申請し、大学側が時間割を全て調整するというものでした。千葉大での方法と異なり、また受けたことない授業にどうやって優先順位をつければいいのか…また、もし授業が思っていたものと違っていたらどうすればよいのだろう…と戸惑ったのですが、各クラスの授業内容や成績評価方法は詳しく書かれていたのでそれを参考にして申請を行いました。しかし、私の場合、授業が2セミスター間で変わらないものばかりなのでやはり、不安ではあります。とりあえず、始めてみてという感じです。

千葉大では国際教養学部の所属なのですが、ノーザンブリアでは Faculty of Arts, Design and Social Sciences という大きな括りの中の Media and Journalism というコースの所属になります。学部の授業は月、火、金曜日の予定です。個人的には Academic Language Skills for Humanities and Social Sciences という授業が心強いです。この授業は単位には換算されない、オプションのものなのですが、この学部の他の授業をうけて行く上でも手助けになるのではと考えています。水曜日は留学生向けの Colloquium on British Culture という授業を履修する予定です。この授業はフィールドワーク形式でニューカッスル周辺の歴史的な地域を訪れ、北イングランドの歴史を文化的な側面から探っていくというもので、学部の専攻とは少し離れますが、私自身楽しみにしています。



左はキャンパス内の風景。建物は伝統的な

ものから近代的なものまで様々です。キャンパスと街の境目が明確でないので、どこまでが敷地なのかよくわかりません。

2. 生活の状況

今回は留学してまだ間もないので、現地に来る前の話なども含めて報告したいと思います。まず、イギリスへ留学する学生には、ブリティッシュ・カウンシル主催の英国留学説明会に参加することを強くお勧めします。千葉大からノーザンブリア大学、またイギリス自体に留学している人が近年おらず、先輩や支援室から多くの情報を得ることができなかった私にとっては、このイベントへの参加が留学生活の準備を進めていく上で非常に役立ちました。説明会では visa や保険などの紹介から、一般的に物価が高いと言われているイギリスで生活していく上での節約術まで細かい情報を手に入れることができます。また、イギリス留学経験者や実際にこれから留学する学生などとの交流もあるので、本当に良い機会になると思います。

次にニューカッスルの街についてです。ノーザンブリア大学はニューカッスルの街のほぼ中心に位置しているため、生活するにはとても便利です。学校から5分ほど歩いた大通りにカフェやファストフード店、携帯ショップ、服屋、ショッピングモールが揃っています。そこから更に5分ほど歩いたところには安く野菜や果物が手に入る Grainger Market や Tesco Metro といった大型スーパーがあります。さらに3~4分ほど歩けば日本食をはじめとするアジア食品が手に入る HiYoU というスーパーもあり、本当に徒歩圏内で生活用品から食品まで全て揃えることができます。ニューカッスルの通りは昔ながらの雰囲気を残す素敵な場所ばかりで、今は歩いているだけでもかなり楽しいです。街の中心にノーザンブリア大学とニューカッスル大学が立地しているだけあり、学生街としてかなり賑わっています。

あとは寮についてです、千葉大よりかなり規模が大きいので、学生寮もオプションがかなりあります。しかし、私の申請するタイミングが遅かったのか、部屋が空いていない寮もいくつかあり、選べるものは限られていました。どこの管轄か、食事プランがあるのかまたシェアの規模によって値段もかなり変わってくるので事前によく下調べをして検討をすることが大切です。結果、私はキャンパス内にある、2番目くらいに安い寮に決めました。日本にいるときに寮のレビューをいくつかのサイトで見たのですが、評価が低いものばかりで、どんな場所かと恐れながらやってきたのですが、私自身は満足しています。シャワールームとランドリーは慣れるまで少し使いづらかなと思いますが、キッチンが広々としていて料理もかなりしやすいです。わたしのフラットはヨーロッパ、アジアからの学生が半々と文化が異なる環境から来ていますが、綺麗好きが集まったため、みんな片付けをしっかりと行います。フラットによっては洗い物がたまってしまったり…という話も聞くのでこれに関しては運かなという気がします。しかし、何よりこの寮のい

いところはキャンパス内にあるということで、私のコースの授業が主に行われる建物や24時間開放の図書館まで約3分でいけるということです。多少の使いづらさがあっても我慢かなという気がします。

上にも述べた induction week なのですが、同時並行で freshers week といって student union という団体が多くのイベントを企画しています。千葉大でいう新歓期のようなものです。昼夜を通して本当に多くのイベントがあり、全てに参加するのは正直不可能です。イベントに参加すると友人もできるので、できるだけ参加するようにしました。近くの街への小旅行やニューカッスル大学との合同フェスのようなものまでとても充実しています。

もう一つ、ノーザンブリア大学の制度として Ask4help を紹介しておきたいです、これは student central にあって、職員の方達が学生の質問や相談に対応してくれます。今は新生活がはじまったばかりということもあり、多くの学生が質問、相談をしにきています。私も事務的な質問があって、少しお世話になりました。親身になって質問に対応してくれるので心強い存在です。



キャンパスから5~10分歩くと、左の写真のような昔ながらの雰囲気を残す町並みが広がっています。

右の2枚は student union 主催の小旅行で行った Tynemouth Priory and Castle の写真です。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01～2018/10/31)

1. 勉学の状況

10月に入り、本格的な授業が始まりました。私は media and journalism というコースの授業を中心に現在は6つの授業を履修しています。

コースの4つの授業に関しては週ごとに lecture と seminar が切り替わります。2週間で1つのトピックを扱うという感じです。lecture は日本の大学でいう講義とほぼ同じ感じです。どの授業も2時間弱で、間に休憩がはさまれる授業もあります。seminar は約1時間で、lecture で取り扱った内容を掘り下げてディスカッションをしたり、作業をしたりします。そのため seminar の週は lecture の週で扱った内容をもとにした、リーディングや調べ物など多くの課題があり、基本的に忙しくなります。今のところ seminar ではほぼ毎時間とっていいほど英語力のなさを痛感します。ディスカッションで他の学生の発言が聞き取れなかったり、理解不足で自分だけ意見を述べることができなかつたり、もどかしい思いをする日々です。しかし、一瞬で英語力が向上すれば誰も苦労しないと考え、今は与えられた課題を真面目にこなしていくことに専念しています。

コースの授業を2つ紹介します。1つ目は practice of journalism という授業です。この授業は seminar の週に最新ニュースのクイズがあります。その成績は最終評価に含まれるので定期的なニュースの確認が欠かせません。内容は政治、経済、文化など分野を問わず、イギリスを中心に他国のニュースからも出題されるので本当にカバーしきれないのが現状です。ニュースに触れる機会は圧倒的に増えたものの、点数がとれないので勉強の仕方を模索しています。2つ目は writing for publication という授業です。この授業では英文記事をどのように仕上げていくか段階を踏んで学んでいます。11月に500 words の記事の提出があるため、それに向けて準備を進めています。この授業で学んでいる、わかりやすく簡潔に伝える手段は英文記事を書く場面だけでなく、今後、英語で仕事を進めていく様々な場面で生かすことができそうです。

授業のシステムについて、ノーザンブリア大学では交換留学生は基本的に授業の変更が不可能ということをお伝えしておきたいです。先月の報告書でも述べたのですが、時間割は最終的に学校側で調整され、学生達はポータルやノーザンブリア学生専用のアプリで確認するまで自らの時間割を知ることができません。私自身、1週目の授業を受けた後に自分の思っていたものと少し違うなと感じたものに関して授業の変更を試みたのですが、却下されてしまいました。希望が通らず、しばらくは落ち込んでいたのですが、これがノーザンブリアのやり方で決まった以上は頑張るしかない気持ちで切り替えました。どの授業も受けていく中で他の授業との関連性を見つけていくなどして興味が深まったりするので、続けてみないとわからないこともあるなと感じています。

先月の報告書でも触れた Colloquium on British Culture の授業は1週間の中での楽しみとなっ

ています。今月はハリーポッターのロケ地としても有名な Alnwick Castle をはじめとして近郊へのフィールドトリップのほか、Newcastle Theatre Royal で The Three Musketeers というバレエを鑑賞しました。今回はバレエということで Theatre Royal に行く日はなるべくフォーマルな格好でくると言われていたのですが、Theatre に入るとその荘厳な雰囲気によって圧倒され、言われていた理由がよくわかりました。留学中にまた劇、バレエ、ミュージカルの何かしら観に来たいと考えています。

ハリーポッターシリーズのロケ地としても有名な Alnwick Castle の写真



2. 生活の状況

イギリスに来て1ヶ月が過ぎたのですが、今後イギリスに留学する人にはポストを定期的を確認することを念押ししておきたいと思います。留学して、イギリスに実際に住むということで最初の1ヶ月は手続きしなければならないことがたくさんありました。期限があるものなどもあるので、ポストを確認してフラットのみんなで呼びかけあうようにしています。

先月の報告書では触れなかったのですが、ニューカッスルの地元のボランティアの方たちが行っている、The Globe international café というものに時々参加しています。週一でボランティアの方や世界各地からニューカッスルに来ている人たちと話したり、ゲームをしたりする交流会があるほか、1時間ほどの英会話グループや週末には時折ニューカッスルから少し離れたところまで小旅行に行く企画もあるため、充実した時間を過ごさせてもらっています。月初めに、この企画の一つで世界遺産である Hadrian's Wall と Hexham という町に行く企画に参加しました。勉強が始まったばかりでアタフタとしていたのですが、友人達と話したり、雄大な自然に感動したり、とても良いリフレッシュになりました。

また、週末を利用して友人達と Edinburgh や Durham といった近郊の都市にも出かけたりしました。エディンバラは朝5時発の高速バスを利用するというなかなかハードなものでしたが、エディンバラ城をはじめとして主要なスポットを巡ることができたのでよかったです。ダラムはニューカッスルからバスを利用して1時間ほどで行ける街です。小さい街ながらも、ダラム大聖堂やダラム大学内のお城は観光客で賑わっていました。素敵なカフェにも出会えて、個人的にはダラムの街がとても好きになりました。エディンバラもダラムもハリーポッター関連のスポットが充実しているのでファンの人にはとっておきの機会になると思います。

これから冬に向けて日も短くなって気温も下がり、また semester 末は提出課題も多いということがわかっていたので今月の週末はできる限り予定を入れ、行きたいところに行き、やりたいことをやり、総じて忙しかったなという気がします。11月になると提出しなければならない課

題の期限も迫ってくるので、勉強を中心としつつもまた充実した時間を過ごすことができればいいなと思います。

international café のトリップで行った、Hadrian's Wall(ハドリアヌスの長城)の写真です。



エディンバラの町並みの写真です。
霧がかかって雨が降ったり、止んだりの一日でした。



ダラム大聖堂の写真です。
近くで見るとその大きさに圧倒されます。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/01～2018/11/30)

1. 勉学の状況

今月は自分自身、勉強面でかなり悩まされました。最初の1ヶ月の授業ではレクチャーライドの予習、復習とセミナーに向けて課される課題に取り組んでいたものの、課題の意図もわからず、理解なくして終わる、勉強方法もつかめないという日々が続いていました。理解が不十分なので少人数のセミナーになるとどうしても他の学生のディスカッションについていけず、一人発言もできずというのを繰り返し、セミナーに行くのが嫌だなという気持ちになっていました。そんな中、ある日のセミナーで授業中にチューターから2回名指しを受け、発言しなければならない状況になりました。1回目は黙り込み、2回目は喋ってみたものの話した内容は検討違い、クラスの雰囲気も変な感じになり、かなり恥をかきました。あんなにクラスで気まずい思いをしたのは人生でも初めてです。自分の英語力のなさ、またメディアの分野に関する知識のなさを痛感し、全ては自己責任であるというように思いました。しかし、今それを後悔したところでどうしようもなく、それ以上に来たる exam や essay への不安がどんどん募っていきました。このままの理解では単位を落とすと思い、各クラスのチューターのオフィスアワーに出向いて自分が英語力、またイギリスのメディアに関する背景知識のなさから授業についていけないことを正直に話しました。どのチューターも親身になって話を聞いてくれ、各クラスの今後の assessment に対するアドバイスをくれました。少しは不安が減ったものの、最終的には自分自身の力であるので今セメスターが終わるまでは少し落ち着かないな…と思います。後悔をしないように、できる限りの力を尽くしたいです。

また今月は assessment に入る提出物もありました。Writing for Publication という授業でローカルな内容に関して 500 words の記事を提出するというものです。idea 探しから行き詰まってしまった私はこれもオフィスアワーに相談しにいくところから始まったのですが、チューターに難しく考えすぎずに自分ができるとをやれば良いと言われて少し安心しました。lecture の内容に沿って進め、無事に interview を終え、何とか記事を書き上げました。Interview は許可をいただいて録音したのですが後から聞いても単語が曖昧なところがあり、その場でメモを同時にとりながら聞いておくべきだったと思いました。次に活かすことができれば良いです。500 words という字数設定は interview の引用なども含めるとそんなに大変ではなかったのですが、構成や語彙がどうしても単純すぎると書きながら感じていました。ネイティブの学生とは比べものにならないなと思っています。12月にフィードバックがもらえるので、次の課題に活かしたいです。自分自身、もっと英文に触れる機会を増やさなければならないなと改めて実感させられました。今はセメスター末の提出課題に向けて文献をたくさん読んでいます。

2. 生活の状況

先月の後半から急に気温が下がり、ニューカッスルの11月は千葉の冬またはそれより厳しい気候であると感じています。1、2月が一番寒い時期と聞いているので、どんな寒さになるのかと思うと不安ではあります。また日も目に見えて短くなり、外出する時間も気をつけるようになってきました。

今月はイギリスの伝統行事である Bonfire Night に行ってきました。イギリス各地でかなりの盛り上がりを見せているようです。私が行ってきたのはヘクサムで街で行われたもので、地元の人と言うにはこの近辺ではかなり規模の大きいものであるようです。最初に楽器の演奏とともに大きな焚き火が披露され、その後30分ほど花火が打ち上げられました。花火はとても綺麗だったのですが、個人的には焚き火からの火の粉が自分に降りかかるのではないかと終始落ち着かなかったです。日本で花火というと専ら夏のイメージですが、イギリスではこの Bonfire のシーズンと新年のイメージが強いということです。

学生寮に住んでみて、共同生活に慣れていない身としては戸惑いを感じることはやはり多いです。また、シャワーのお湯がでなくなる、火災報知器が鳴る、キッチンの電源が落ちる、暖房が壊れるなどといった様々なハプニングが週1回の頻度で起こるのですが、一つ一つの問題に対して態勢がついてきたとは思っています。何も無い週のほうが珍しいです。大体の問題は隣の寮にある受付カウンターに行けば、すぐに対応してもらえます。シャワーは1週間近くお湯がでない状態で辛かったのですが、隣の寮のワンフロアが開放されたので借りに行きました。他にも一人暮らしをしていた時にはゴミ出し、掃除などすべて自己責任であり、自分のタイミングでしていたものも、こちらでは溜まったゴミを誰が持って行くか、共有スペースをどう管理するかなど他の人の配慮を常に考える必要があります。誰かがやってくれると考えるのではなく、気づいたときに自分がやるという意識をフラットに住むみんなが考えないといけないと思うと、共同生活はやはり難しいものです。しかし自分は今の寮、フラットで良かったと思っています。というのも、フラットメイトが上記のことにちゃんと気づき、行動できるメンバーであるため、共有スペースがいつもきれいな状態で保たれていることが大きいです。いろんな人にそれは幸運と言われるあたり、やはり恵まれているのかなと思います。毎週起こるハプニングにはかなり疲労を感じていますが、まあ何事も経験かというように自分自身に言い聞かせています。前にも報告書で述べた通り、寮は運任せのところはありますが、事前にできる限りの情報を集めておき、先着などの場合もあるので早めかつ慎重に選ぶことをお勧めします。

11月は来月のクリスマスイベントに参加したいという思いと自分自身勉強についていけないという焦り、身の回りで起こった数々のハプニングの対処に追われ、目立った遠出はできませんでした。それでも日々の生活で友人とアフタヌーンティーを楽しんだり、おいしいレストランに行ったりすることができたので自分的には満足しています。来月はいよいよクリスマスシーズンということで、イギリスでのクリスマス、その後のホリデーの旅行を含めて楽しむことができればいいなと思います。

bonfire night の焚き火の様子です。
キャンプファイヤーの何倍も大きい印象でした。



焚き火の後に打ち上げられた花火の写真です。

ニューカッスルのシティーセンターには既に
クリスマスマーケットが並び、ストリートには
小さな遊園地のようなものが設置されて
平日休日問わず、人で賑わっています。
街全体がクリスマスの雰囲気です。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01～2019/01/07)

1. 勉学の状況

今月は提出しなければいけない essay や reading report が本当に立て込みました。毎週のように立て続けにくる締め切りに終われ、一日中部屋や図書館にこもってエッセイ、気がつけば一日誰とも話さなかった…などという日も多くありました。

この経験を経て、私が日本にいるうちに身につけておくべきであったと考えることを紹介しておきます。今後学部留学で assessment に essay がある人は特におすすめしたいです。1つ目は英語で文献を調査することです。私自身、日本で英語の essay を書いたこともあったのですが、文献を日本語で調査してしまっていたため、この作業に慣れていませんでした。「今日はエッセイを書こう！」という気があっても「何から始めるの…」状態でかなりの時間を無駄にしてしまったと思います。モジュール毎に提供される、リーディングリストを利用できる場合もありますが、それ以外から探すよう求められることもあります。留学において英語で自分の必要な文献を探して、エッセイにどのように活かすかという作業は必要不可欠であると思います。2つ目はパラフレーズする力です。これは語学試験でもそこまで問われるものでなかったため、自分に皆無の能力でした。要するに英語の専門的な文献を読んで、それを自分なりの言葉で(もちろん英語で)説明するというものです。留学してからは Plagiarism、いわゆる盗作を避けることを度々注意されます。日本にいるときも同様ですが、特に母語とは異なる言語ということで日頃から意識して文章を書く必要があると思います。というわけで、文章を即興でパラフレーズする練習を Academic Language Skills の授業でしたのですが思考も手も完全に止まり、気づいたときには周りにおいていかれていました。英語を英語になおすというのは単純そうに聞こえて、やってみるとかなり労力が必要で、結局のところ私はその過程では日本語の思考も交えて作業しました。二度手間どころではありません。とりあえずは以上の項目が essay において必要不可欠だと自分自身の経験から考えました。偉そうに語っていますが、これができなかったからこそ痛い目にあった留学生は私です。同じ留学生でも訓練してすでに慣れている人は当たり前のようにできています。こんな私を反面教師にして、今後留学する人はこれらのことを当たり前のように日本にいるうちから身につけておくべきだと思います。

私の履修していた多くのコースでチューターがチュートリアルやドロップインセッションなどを行ってくれ、一対一でエッセイテーマに関するアドバイスをもらえたことは本当に助けになりました。参加は任意のことが多いですが、まず参加してみることをおすすめします。チューターも頑張ろうとしている学生を救ってくれます。うまくエッセイを書けた学生も改善点を見出しもらえるいい機会になります。

2. 生活の状況

先月の中頃から街がクリスマスの雰囲気であっていましたが、12月は毎週のようにクリスマスイベントがあり、忙しいながらも積極的に参加するようにしました。課題の期限が迫り、気持ち的に焦る部分もあったのですが、ここで楽しんでおかないと絶対に後悔すると自分自身思ったのと、勉強と遊びをうまく両立している友人を見ていて羨ましく、自分もそうありたいと思ったのが大きいです。フォーマルドレスを着て参加したクリスマスボール、インターナショナルカフェでのボランティアによるクリスマスキャロル、ヨークへのクリスマスマーケットと特別なイベントが盛りだくさんでした。ノーザンバーランドシアターにおける「クリスマスキャロル」の劇は自分自身、好きな物語で本場でのシアターが体験でき、とても感動しました。インターナショナルカフェのクリスマストリップでは行きたかった湖水地方を訪れることができました。イギリスの伝統的なクリスマスミールはおいしく、クリスマスパーティーにおけるイベントやゲームを通してメンバーたちとも仲良くなれ、自分自身リラックスして楽しい時間を過ごすことができました。久々にたくさん話して笑って、何よりも思い出になったと思います。クリスマス当日にもニューカッスルの友人の家でクリスマスミールを自分達で作り、ホームパーティーを行い、素敵な経験となりました。イギリスあるいは海外でクリスマスの時期を過ごすということは一生のうちにもうないかもしれないと思うと少し寂しくもありますが、だからこそイベント一つ一つが貴重なものに感じられ、楽しむことができたと思っています。

しかしながら、本当にクリスマスが近づく頃には来るエッセイやレポートの締め切りに終われ、また他にも自分の身の回りで少しずつ嫌なことや不安が重なり、気づけば毎日泣きながら作業しているな…などと思っていたのですが、あるとき急に心が折れました。留学してから度々辛いことは経験してきたのですが、今回はもう涙が止まらず、5時間以上永遠に泣き続け、日本の両親にも号泣しながら電話しました。ただ何かこれが嫌だというものではなく、積み重なるものによるストレスやプレッシャー、そして孤独感からくるものであったのかな…というように感じています。本当に満身創痍の状態でした。全てのものを悪い方向に考え、日本の友達の楽しい様子をしばしばシャットダウンしてしまうほどにはメンタルも崩壊していたと思います(笑)。2年という時期で留学を決断したことがよくなかったのか、日本で履修したことのない分野にチャレンジしたのが間違いであったのか、と自分の選択を大いに悔やみました。しかし両親や同じく留学している日本人の先輩などとたくさん話し、留学中だけに限らず、日本にいるときから挫折や失敗は往々にしてあり、苦しんでいるのは自分だけでないということ、また苦労は多い留学生活であるものの、様々な出会いを通していろんな生き方があるのだということを実感し、自分自身まだ頑張れるはずだというように思いました。結果的に通常の交換メンバーより、マスターメンバーよりも若い時期に留学しているので、先輩達から常に学ぶことや吸収することも多く、また自分の専門科目や今後の将来に関しても今一度考え直すことができたのでこの時期に留学したことは自分にとっては一番の選択であったと考えています。

年末年始にかけては友人とロンドンやヨーロッパ諸国への旅行にも行ってきました。バルセロナ、ブリュッセル、アムステルダムなどをはじめとして大きい都市が多く、不安もあったのです

が、こうして無事に帰ってくる事ができたのでとりあえずは安心です。来週に向けてラストの essay と exam があるのですが、乗り切れればまたセメスター 2 まで少し時間があるので今回はニューカッスルでゆっくり休みたいと思っています。

イギリスの伝統的なクリスマスミールです。
シンプルでソースと具材の相性がよく、
とてもおいしいです。
今月だけで4回クリスマスミールを食べました！



クリスマストリップで行った湖水地方の写真です。
どこまでも広がる雄大な景色に心が和みました。

ヨークの大聖堂と町並みです。
大聖堂はかなり規模が大きく、その建築に圧巻されました。
ちょうどクリスマスマーケットの時期で
素敵なお店が多くありました。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/01/08～2019/01/31)

1. 勉学の状況

旅行からニューカッスルに戻ると、休む暇もなく残っていた essay と exam の勉強をし始めました。

エッセイは Global Media の授業の課題でテーマに関しては12月の間にオフィスアワーに相談しに行っていたため、構想はそれなりに出来ていたのですが、それでもかなりの時間を要しました。日本語だったら2、3日で終わりそうな分量のものもこちらでは丸6日ほどかけて仕上げます。人によって時間のかけ方は違うと思いますが、私の場合はセメスター1の授業で理解できていなかった付けが回ってきたなという感じがしました。これに関してリーディング課題でも読んだな、ということは覚えていても、その事例をどのようにエッセイの中で取り扱うかアイデアが浮かばず、気づけばパソコンの前でぼーっとして1時間過ぎているというようなこともよくありました。もう少し時間をうまく使いたかったです。予想以上に仕上げるのに時間がかかって締め切り間近の提出となってしまいました。精神的な負担も重かったので次回はこんなことにならないように気をつけたいです。

学期中からずっと心配し、チューターにも相談しにいていた記述形式の exam に関しては正直、手応えがありません。授業で理解しきれていない事例が多すぎたと反省してスライドを見直し、リーディングリストを読もうと試みたのですが、何から手をつければよいかわからない状態でした。100%を理解するのは不可能ということを知った時点でチューターに質問すべき内容を絞ることもできず、概念や例をどれだけ理解、暗記していけばいいのかも皆無で、記述形式の exam がいかに大変なものであるかを痛感しました。Assessment に記述形式の exam がある人は要注意です。この科目に exam があるということは知っていたのですが、根拠のない自信から何とかなる！と意気込んでいました。何とかならないこともありました。自分の努力が足りなかったと責められるとそれまでなのですが、他にも課題があるなかでバランスをとって勉強していくのは難しかったです。改めて記述形式 exam の大変さを知るという点で経験になったので、セメスター2はこの反省を踏まえて授業に取り組んでいきたいです。

12月末に毎週のように追われて提出したいくつかの課題にフィードバックがきました。提出したエッセイやリーディングレポートに点数がつけられ、チューターからコメントがもらえるのは手厚いです。どれも素晴らしい評価であったとは決していえないのですが、それでも自分なりに良かったかなと思えるものもあり、自信にも繋がりました。大事なのは点数よりも、コメントということですが、どう活かしていくか現在模索中です。

最終週からはじまったセメスター2に関して、私は year long の授業を中心に履修していたため、大好きだった Colloquium on British Culture の授業が終わってしまったことを除いて、曜日

や時間の変更以外、特に内容に変わりはありません。新しいチューターの授業に関してはまた慣れていく必要があると感じています。Colloquium on British Culture の授業では North East のお城や遺跡、museum などへの訪問を通して、思いがけず日本とニューカッスルの関係性について学んだり、高校時の世界史の知識を思い出したりして有意義な時間を過ごしました。おもしろくて親身なチューターをはじめとして、各国からの交換留学の友人らとも仲良くなれた授業だったので、終わってしまったのがとても寂しいです。

2. 生活の状況

月の前半は上記のように essay と exam を中心とした勉強生活で本当に図書館と寮の往復で日々が過ぎていきました。エッセイ提出後、中盤ようやく exam を終え、セメスター1が終了しました。恥をかいたり、課題に追われたり、泣いて励まされたりと過ごしているうちにあっという間に終わった気がします。セメスター2の授業が始まるのは最終週からで、1週間と少し休む時間がありました。年末年始のヨーロッパ旅行は充実していたものの、気休めにはなっていなかったため、今回は文字通り心ゆくまで休もうと心に決めていました。日本食をつくってみたり、イースター休みや帰国後のことについて考えたり、基本的にだらだらと過ごすことが多かったです。ここでセメスター2のリーディングを進めたり、セメスター1の復習などをしたりするのが最適なかもしれませんが、学期末に力尽きた私はこれ以上もう何も手につかないというような状況でした。セメスター2でしっかりスタートをきるために必要な選択であったと思っています。

この期間に少しニューカッスル近郊やニューカッスルの街のスポットに友人達と訪れたり、自分で足を運んでみました。インターナショナルカフェのクリスマストリップで仲良くなった友人達との湖水地方へのデイトリップは往復4時間のドライブでしかも目的地がまさかのオフシーズンで空いていないというハプニングもあったのですが、楽しいメンバーで終始笑いが絶えなかったです。湖水地方の土地の歴史や湖水地方が舞台となっているピーターラビットの話もいろいろ聞いて充実した一日になりました。次のデイトリップも楽しみです。お世話になっている地元の夫婦とアートギャラリーを訪れ、家にも招待してもらいました。素敵なおうちでゲームをしながら英語と日本語、イギリスと日本の文化差などの話をし、とても楽しい時間を過ごしました。「いつでも遊びにきていいんだよ～」と言われ、心温まる思いです。

先月の報告書でも述べましたが、半期を振り返って留学生活では自分が想像している以上にストレスがたまったり、孤独に苛まれたりすることが多いです。全員が全員そうというわけではないですが、留学前に考えていた生活とは裏腹につらくて苦しい思いをする人は私のほかにもいます。もちろん大変だということは覚悟の上での留学ですが、セメスター1を終えてあらゆる面で思うようにいかず、それは自分の実力不足で英語力が足りないから、基礎知識がないから、日常でのちょっとした嫌なこともそれは自分の生活力、コミュニケーション力がないからと私は自己嫌悪になってしまいました。周りの人に何気なく言われた言葉にも影響され、やはり自分がどこまでも甘い考えで、要領が悪いんだなと考えてしまいがちでした。しかし、同じく留学している大学の友人や日本の友人に、「辛いときはお互いに励まし合って頑張ろう！」と言ってもらった

り、「頑張っている自分をもっと褒めてあげて！」と言ってもらったり、自分の頑張りを改めて認めてくれる言葉に救われたような気持ちになりました。もちろん自分自身、反省しなければならないことはあらゆる面にあったことは理解しています。それでもこっちに来てから、甘かったなりに考え直し、要領が悪いなりに模索し、とりあえず頑張ってきた自分を褒めて肯定しようと思いました。自分自身は大事にしていきたいです。そして言葉をかけてくれる友人の存在に感謝したいと思いました。

長いように感じていた留学も早いもので折りがえし地点です。上がった、下がったの毎日で気持ちもなかなか落ち着きませんが、一つ一つを経験と捉え、来月も自分なりに少しずつ頑張っていきたいと思います。



冬の湖水地方の美しい風景です。

ニューカッスルのランドマーク
ともいえる二つの橋です。
Newcastle castle(写真右)からの眺めです。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01～2019/02/28)

1. 勉学の状況

先月の報告書でも述べたとおり、セメスター2ではコースの授業4つと Academic Language Skills の授業を履修しています。コースの授業は year long のものが中心であるため、セメスター1と基本的には同じですが、セメスター1で学んだ概念をもとにケーススタディーなどを取り扱うことが多いので自分的には興味範囲に近づいているものがセメスター1より増えたかなと感じています。

Global Media の授業ではハリウッドの映画を中心に扱い、社会関心にどのような影響を与えるかについての事例を学びました。セミナーではリーディング課題に関連したトピックについてチューターから議題が与えられ、話し合うなどしました。リーディングはイギリス人の学生も難しいと感じるらしいタフな内容のものが多く、読むのに毎度苦戦します。日本語でもアイデアを思いつくことができず、それを更に英語で話し合うというのは本当に厳しいです。自分なりに毎回の授業で学び、吸収することは多くあるのですが、セミナーでの貢献度が低すぎて申し訳なさを感じてしまいます。

Writing for Publication の授業では Live Blog といって、live で起こっている出来事を実況中継するような形の課題に取り組みました。日本でこのようなメディアにふれたことがなかったため、まず Live Blog とは何か理解するところからはじまりました。オフィスアワーに基本的なことから聞き直していくといういつも通りのスタートでしたが、やがてこの課題がいかに大変なものであるか身をもって痛感しました。というのも、英語力の差が他の課題以上に顕著に現れます。まず出来事を知る上でリスニングがあるわけですが、個人的にテレビの英語は授業の英語よりスピードが速く、聞き取りにくいです。さらに起こった出来事の内容から重要なことを厳選して自分の言葉で即時に発信していくわけですが、私自身としてはエッセイに劣らない大変な課題でした。しかし以前にチューターから自分ができることをやれば大丈夫とアドバイスをもらったことを思いだし、今回は自分なりに出来ることを目標に取り組みました。課題に取り組んでいる間は聞き取りと情報収集で焦りまくり、終わる頃には完全に疲弊していましたが…(笑)。振り返ってみると、かなり実践的で興味深い課題だったと思います。

ノーザンプリアの学生にはチューターの担任制度があります。私のチューターはコースの授業の一つを担当していて、いつも気にかけてくれています。留学生の少ないコースで授業についていくことができず、ディスカッションにも参加できず、悩んでいた自分をみでずっと心配してくれており、本当に辛いときは一人で抱え込まないようにと言葉をかけてくれます。相変わらず、つらいな、大変だなと感じることはありますが、サポートしてくれるチューターのためにもセメスター2を自分なりにやりきることができればと思っています。

2月は休暇の余韻からなかなか抜けることができなかったことに加え、週末の旅行や学外での活動の予定を入れすぎてしまったため、まとまった時間しっかりと勉強するということが少なかったので反省しています。セメスター1を踏まえて、セメスター2は学期末に焦ることがないように来月から学期末に向けてリーディングなど計画的にしていけないと感じています。

2. 生活の状況

先月末くらいから寒さが本格化し、今月の頭は最高気温が3度にも至らず、最低気温がマイナスというような日もありました。雪も降りますが、今年は本格的に積もることはなかったです。ニューカッスルは気温こそ日本とさほど変わらず、秋に気温が大幅に下がってからはそこまで大きな変化はなかったのですが、この時期の寒さはかなり辛かったです。というのも強い風の影響か、他にも要因があったのかわかりませんが体の芯から冷える感じの寒さです。実際の気温より体感温度は寒かったと思います。月の後半には最高気温が10度を上回って日も長くなり、春に近づいているのを感じられ、嬉しかったです。地元の人たち曰く、今年は去年と比べて暖冬でかなり過ごしやすかったということでした。

今月もニューカッスル近郊を中心として様々なスポットに出かけました。ニューカッスルには無料あるいは学割で入れる博物館や美術館が多くあります。またバスでも様々な場所に行くことができます。街のモールやデパート、本屋、雑貨屋に足を運んで気分転換したり、友人と週末に出かけたりしました。また初めてニューカッスル・ユナイテッドの試合観戦に行ってきました。St. James' Parkの近くに行くことは度々あったのですが、スタジアムの中に入るのは初めてということで改めてその大きさに感動しました。地元の家族と応援にきたこともあり、ニューカッスルの方言 Geordie による声援や応援ソングに関して意味を教えてもらったのですが、やはり Geordie は日本で学んだ英語との違いが多く、なかなか理解するのが難しいです(笑)。サポーターたちの熱い声援から、ニューカッスルの人々の地元愛の強さが伝わってきました。試合はニューカッスル側の勝利で、間近でゴールの瞬間もみられて本当に忘れられない思い出となりました。

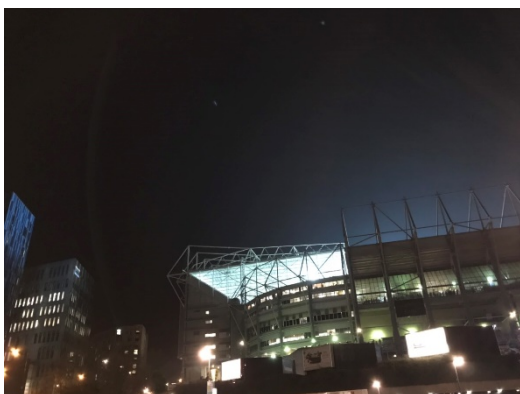
週末に、海辺の Whitby という街へ地元のお世話になっている夫婦にドライブで連れてってもらいました。Whitby はキャプテンクックや Whitby Abbey の遺跡、多くの化石が発掘されたことなどで有名な文化的魅力が詰まった街です。海沿いの街ということでフィッシュアンドチップスのお店も多くあります。街全体がゆったりとした雰囲気です。サンセットを見に海辺を散策するのもよし、博物館や美術館も興味深い内容で充実した時間となりました。人生で初めてバンガローのコテージに宿泊したのですが、とても素敵な場所で自分の家にしたいと思うくらいでした(笑)。何より夫婦と一緒に料理したり、ゲームをしたり、まるで家族旅行のように楽しんだのが思い出です。5ヶ月間、いろいろな都市を観光してきましたが Whitby は私の中で一番のお気に入りの街です。

また今月の一大イベントとして、インターナショナルカフェで Japanese Night を企画しました。様々な国からの留学生が集まるインターナショナルカフェでは月1くらいで各国のイベント

があるのですが、ノーザンブリア大とニューカッスル大の日本人留学生の有志で是非日本イベントをやりたいとのことで、今回企画させていただく場を得ることができました。1月末から、週1でミーティングをして文化紹介のプレゼンや日本語講座、折り紙体験のアクティビティー等について話し合いました。当日は150人以上に日本のカレーとデザートのお団子を振る舞うということで、様々な方からアドバイスをもらって材料を計算したり、時間内に効率よく調理する方法についても考えたりしました。迎えた当日、カレーが足りなくなってしまうかもと心配するほどに人が集まり、自分達もボランティアの人々も驚きでした。プレゼンにおいて私の担当は衣食住を中心とした日本の生活様式についてでした。およそ200人の前で喋るのはかなり緊張しましたが、笑いをはじめとしてリアクションをたくさんいただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。このイベントを通して多くの人々に日本について興味をもってもらえたことは勿論、ボランティアの方々から「日本人の計画性は素晴らしい！」と感心されるなど、改めて日本や日本人について考え、認識してもらうことができたと思っています。何より企画から運営まで楽しみながら、みんなで一つのイベントを作り上げた時間が最高の思い出です！

今月は留学生活において、忘れられない素敵なイベントが盛りだくさんで、本当に充実した時間を過ごすことができたと思います。週末旅行やサッカー観戦に誘ってくれた地元の夫婦や Japanese Night に携わった留学生の友人やインターナショナルカフェのボランティアの方々など周りの人々にはいつも感謝の気持ちでいっぱいです。来月も楽しい生活を送ることはもちろんですが、イースター休暇を満喫するためにも少しずつ essay や exam に向けた勉強もしていきたいと思っています。

シティーのモニュメント付近の写真です。暖かくなってきたこと、日が長くなってきたことから、シティーに遊びに行く機会が増えました。



夜の St. James' Park の写真です。スタジアムに向かうサポーターが試合前から声援や応援ソングで盛り上がっているのが印象的でした。

Whitby の beach の写真です。
Sunset の風景が 3 日とも少しずつ異
なり、毎日風景を楽しみました。
オフシーズンであったこともあり、
beach はとても静かで落ち着いた雰
囲気でした。



Whitby Abbey の写真です。近くで見るとそ
の大きさが伝わってきます。

Whitby の写真です。Art Gallery に
展示されている一昔前の Whitby
風景画に近いものが現代でもみら
れます。街全体を通して歴史が感
じられます。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01～2019/03/31)

1. 勉学の状況

4月は3週間イースター休暇があり、5月は中旬からテスト期間ということで、セメスター2も終盤に近づいています。セメスター2は本当にあっという間に過ぎていきます。

Writing for Publication では SNS を中心としたメディアを取り扱っています。5月までの最終課題はツイッターを利用したものということで、またユニークな課題だと感じています。SNS という趣味をはじめとして日常生活利用のイメージが強いですが、多くの企業や個人がブランドイメージとして利用する現代の社会を踏まえ、SNS について改めて勉強し直すことの重要性を感じています。話が少し逸れますが、他の授業において Citizen Journalism と SNS 等を利用して誰もが発信する機会がある社会に関して学んだり、デジタルテクノロジーがメディアに多様性をもたらした変化を勉強したり、それぞれの学びに繋がりを感じます。メディア以外の専攻の学生と話していた際に繋がる部分も多く、まとまらないですが、要するに学んで無駄なことはないなとつくづく思っています。

Global Media の授業は自分が最も興味のある分野を取り扱っているの、朝起きるのがつらいレクチャーにも気合いを入れて出席しています(笑)。グローバル化した世界におけるブランドの本質、位置づけなどについて学びました。ブランドは消費者が自分自身の個性を表現する手段であること、またデザイナーや celebrity、メディアをはじめとしてブランドという一つのストーリーを確立することなどについて取り扱いました。他に興味深かったものとしてはディズニリーなど若い年齢層向けのメディアが手がける新しい戦略などです。これに関してはセメスター1から、いくつかの文献を読んで知識を入れてきたこともあり、「この話は知ってるな」ということが結構あったので、やはり自主学習の重要性について思い知らされます。

セメスター末提出の2000 wordsのエッセイを今回こそはイースター前に書き出す！と意気込んでいたのに、気づいたら3月も終わってしまいました。日々の授業もある中で、自主学習とその他のことをバランスよく行うのは難しいと改めて痛感します。トピックに関して、チューターと相談して構成のアドバイスをもらうことはできたので、これから頑張りたいと思います。

自分自身の勉学とは少し離れるのですが、ノーザンプリアの選択科目である日本語のクラスにボランティアとして参加してきました。自分自身が海外における外国語教育、延いては日本語教育に関心があり、どのようなスキルにフォーカスして指導しているのか、またその指導法などを学ぶのに良い機会だと思った次第です。クラスでは日本での実生活を想定したロールプレイングなどビギナー向けのクラスでも実践的な内容で、チューターの指導方針がビジネスフォーカスのノーザンプリアの特色かはわかりませんが、かなり興味深かったです。日本に戻ったら、大学を中心として日本における外国語教育、日本語教育も改めて見直し、共通点や相違点を探ってみました

いと考えています。

2. 生活の状況

先月末に暖かくなってきたと述べましたが、今月上旬はまた冷え込みました。一日の中でも青空が広がる 2 時間後に霰が降るなど、イギリスの天気はまるで安定しないです。暖かくなったり、寒くなったりを繰り返し、月末の現在ようやく春がきたかな…と思われるのですが、未だに不安定なので、はやくコートなしで生活することができれば良いです。

今月もニューカッスルを中心としてスポーツ観戦や映画館、ミュージアム、公園など様々な場所に出かけました。先月にニューカッスルユナイテッドの試合をみてからというもの、スポーツ観戦の楽しみを知り、今月はニューカッスル・イーグルスというバスケットチームの試合を観に行きました。新しいアリーナで規模はそこまで大きいというわけではないのですが、その分選手との距離感が近く、プレーを間近で観られたのが嬉しかったです。Victoria Tunnel というニューカッスルの史跡に訪れました。Victoria Tunnel はニューカッスルの街の地下に長く横渡っており、戦争中は防空壕としての役割も果たすなど、ニューカッスルの歴史を語る上で不可欠な場所です。トンネルにまつわる歴史話は興味深かったのですが、英語力と歴史背景知識の不足から理解できなかった部分もあるので、自分自身でまた調べ直したいと思います。



写真左は大学の近くの風景。素敵な花がたくさん咲いていました。

写真右はスタジアムの横にある公園です。とてものかです。晴れた日に友人と散歩したときの写真です。



長い冬場を通して室内にいたことが多かったからかスポーツをしたい！という思いが強く、寮のバドミントンのトーナメントに参加したり、トランポリンセンターに出かけたり、友人に誘われて Salsa・Bachata society に参加したりと新しいことにも挑戦しました。トランポリンはたくさんの子どもの中に大学生たちという図が際だっていたのですが(笑)、童心にかえて純粋に楽

しました。Bachata に関しては全くの初心者ですが society の人たちがとてもフレンドリーで基礎から丁寧に教えてくれます。新しい友人の輪も広がり、もっと前から参加しておけばよかった…などと思ったのですが、こちらでの生活に慣れ、余裕のある今だからこそ楽しめるのだと考えることにしました。

先月のインターナショナルカフェほどの規模ではないですが、地元の夫婦の家や友人の寮に遊びに行った際に日本料理を一緒に作ったり、振る舞ったりする機会がありました。もともと料理が得意というわけではないので手の凝ったものは作れないのですが、味噌汁など簡単なものでもみんな喜んでくれ、ほっとしています(笑)。留学生活で食文化の交流は欠かせないので、こちらで作れる日本の家庭料理のレパートリーを増やしておくの良いなと常々感じています。

また今月は春休みに留学していた高校時代の友人がイギリスに遊びにくるということで再びエディンバラを訪れました！エディンバラは10月に訪れて以来、二度目であったのでなんとなくの地理感を頼りにプランをたてて観光しました。前は時間が足りず行けなかった National Museum of Scotland や Scottish National Gallery に改めて訪れることができました。高校の時に学んだ世界史に関連した展示や作品も多く、勉強していた当時を思いだして懐かしい気持ちになりました。ハリポッターゆかりのカフェ The Elephant House、エディンバラ城に関しては2回目ということで、少しばかりは案内できたかな…？と思っています。また友人がサッカー好きということで、エディンバラのハイバーニアンというチームの試合も観に行ってきました。雨が降っており、気温もかなり低かったので凍えそうでしたが、幸運にもまたゴールの瞬間を近くで見ることができ、思い出に残る観戦となりました！週末の2日間だけでしたが、エディンバラの主要スポットを満喫したことは勿論、まさか留学中に懐かしい友人に会えると思っていなかったため、本当に嬉しかったです。地元の友人や日本の大学の友人、留学先での友人、これからも人との繋がりを大切に、日本や世界のどこかで再会できると素敵だなと思います。



左はエディンバラのイースター・ロード・スタジアムの写真です。

写真右はエディンバラのランドマークであるスコットモニュメントです。

写真下はエディンバラ城です。駅やモニュメント付近からは結構上り坂が続きます。



天気がよく、暖かい日があるともったいない！と出かけてしまい、冬場より自主勉強時間が全体的に減っているのが否めないのですが、ニューカッスルにいられる時間も限られているので、思い残しがないように日々を過ごしていければと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01～2019/05/02)

1. 勉学の状況

イースター休暇ということで授業は初週と最終週のみでした。

月の初めに Writing for Publication の Live Blog のフィードバックが戻ってきました。この授業のこれまでの課題が英語での表現力を特に問うものであったのに対し、今回は文章のタイピングのスピードや正確さは勿論ですが、どのように内容を組織していくか、ブログを利用するにあたって様々な機能を使いこなしているか、などスキル面に関して問われる部分も多かったということに気づきました。2月の報告書では必要とされる英語力ばかりにフォーカスしていましたが、それ以外に差をつけられる面もたくさんありました。ネイティブスピーカーに英語力で勝ろうというのは高い志ですが、母語であるかそうでないかの差は非常に大きく、現実として苦労している留学生は多いと思います。英語だけでなく、何か得意とするスキルをとすることは度々言われてきたことですが、改めてその事実を再確認させられた課題となりました。Writing for Publication の最終課題としてツイッターを利用した assignment では Live Blog のフィードバックから、そういったことを念頭に置いて取り組むことができたので良かったと思います。

Key Concept and Debate in Journalism の 2000 words のエッセイに関しては結局イースター休暇も終わりに差し掛かったところで取り組みだすという、セメスター1の反省をしているのかと思われる所行ですが、セメスター2末の exam までかなり時間があることや他の課題を終わらせていたことから、今回は余裕をもって取り組みそうです。チューターに相談したテーマで主となる概念のリーディングをしたり、ケーススタディーを調べたりしながら、少しずつ進めています。少なくとも exam 期間に入る前には終わらせて、2つの exam 勉強に集中出来れば良いと思います。

2. 生活の状況

休暇がはじまってすぐ、ロンドンに一人旅をしてきました。年末の旅行ではほぼ2日でランドマークを見てまわるような感じであったので今回は5日ほど観光する時間をとって自分自身が行きたかった、友人に勧めてもらった博物館や美術館を訪れました。歴史上有名な画家の絵を鑑賞する度、もう少し美術史を深く学びたいと思わされます。今回訪れた中で興味深かったものとして、テートモダンのメディアに関連した展示です。先月の報告書でも述べましたが、メディアの分野一つにしても今回はアートという他の分野との繋がりがあるということをこの展示から改めて考えることができました。これからも一つに偏り過ぎるのではなく、俯瞰的に問題を考えていければよいと思います。

また、音楽が好きなのでロンドンに来たらウェストエンドのミュージカルを観ると決めていま

す。年末にも Wicked の公演を観に行き、とても感動したのですが、今回は映画化されたことでも有名なレ・ミゼラブルを観に行ってきました！観たことがある友人誰もが「本当に良かった！」と絶賛していたのですが、本当に素晴らしかったです。ロンドンに行く機会がある方には是非おすすめします。一人旅は人と楽しみを共有したり、笑ったりということは出来ませんが、自分自身で学びを深め、いろいろと考えさせられる良い経験となります。ただし、ご飯を食べる時間がどうしても寂しいので私は 1 週間が限度です。(笑)

その後はまたまた、いつもお世話になっている地元の夫婦と一緒にドライブでスコットランドに行ってきました！スコットランドはエディンバラを既に 2 回訪れていますが、今回はそれより北の Inverness という街の近くのコテージに滞在し、絶景の島として有名なスカイ島にも日帰りで訪れました。スカイ島は行く先々に美しい風景が広がっていて、ドライブ、ハイキングにはもってこいの場所です。ハイキングコースは思ったより本格的な道が多くてなかなか大変でしたが、素敵な景色をみた後にはそんな疲れも忘れられます。移動時間がなかなか多い旅でしたが、コテージで話をしたり、ゲームをしたりしてくつろぐ時間とオンオフの切り替えをしながら、充実した時間を過ごすことができました。

最終週もニューカッスルに滞在しながら、近郊に日帰りで出かけるなどして過ごしました。イースター休暇の後半は天気も気温も今までにないほど良く、日によっては「夏のような天気だ！」とイギリス人たちも言うほどでした。イギリスの夏は日本の夏よりも涼しく、とても過ごしやすい気候ということで、年中イギリスの夏のような場所に暮らせたなら良いなと思います(笑)。日本から持ってきた冬服を着ていると、暑い…と感じる日もありますが、待ちに待った春？夏？に毎日嬉しい気持ちでいっぱいです。日も長くなって今では 20:30 くらいまで明るいため、一日が長く感じてのんびりとしてしまいますが、5 月はいよいよ留学も最終月ということで最後の exam のためにしっかりと勉強しなければと思います。またここで出会った友人達ともお別れということで残された時間、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

都会から田舎までイギリスという国を満喫し尽くし、多くの思い出ができ、本当に素敵なイースター休暇となりました！しかし恐らく旅行中、自分でも気づかぬうちにカードがスキミング被害に遭うというトラブルがありました。幸い、セキュリティの高いカードであったため、不正利用を未然に防げたものの、カードが一枚使用停止となって多少不自由な生活が続きました。ニューカッスルでの生活に慣れて自分が海外にいるという意識も薄れて来た頃におこったことですが、一人旅中は常に貴重品を身につけて自分の目に入るところにと注意を払っただけに、こればかりはどうしようもなかったと思います。今後もお金の管理に関して海外では特に気を付けていこうと思います。

写真右はロンドンのクイーンズ劇場の写真です。
レ・ミゼラブルの公演が行われています。



写真下はスカイ島の fairy pools の写真です。
エメラルドグリーンの水面がとても綺麗でした。



スコットランドはイングランドより山の数が比較的多い…? ためか、日本を思い出させる風景が広がります。



Neist Point Lighthouse の写真です。倒れそうなくらい風が強かったのですが、広がる海の風景がとても素敵でした。

ネッシーで有名なネス湖の写真です。



Urquhart Castle というネス湖のほとりにあるお城です。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/03～2019/06/07)

1. 勉学の状況

留学最終月でしたが、最初の2週で全授業が終了して残りがテスト期間であったため、セルフスタディー中心でした。エッセイを仕上げた後からテスト勉強に集中するという計画のもと、最初に先月から取りかかっていた Key Concepts and Debates in Journalism のエッセイに集中しました。内容としてはデジタルテクノロジーの発展によって人々のニュースの見方を変えた中での様々な局面は何か、またこの変化がニュース産業に対してどのような影響を及ぼしているかというようなものだったのですが、何度も何度もエッセイクエスチョンを読んで自分なりにかみ砕き、どのような内容で書いていくことができるか考えていきました。選んで読んだ文献が自分の書きたい流れにうまく沿っておらず、活かされなかったり、適切なケーススタディーが見つからず、思考停止してしまったりと四苦八苦しりましたが、今回は Semester 1 の時に比べ、余裕をもって終わることができました。

その後は残された2つの Practices of Journalism と Global Media のテストに向けて勉強をしました。それぞれ、120分と90分の持ち込み不可のエッセイ形式という、私の最も苦手とする類いのテストでしたが(笑)、事前の授業でどのような準備をおこなえばよいか、どの範囲をカバーしておけば良いかなどの対策があったため、それに沿って勉強を進めていきました。手応えとしては Practices of Journalism はイギリスの政治を中心に様々な制度や定義などの暗記も必要とされたため、やっぱり難しかったな…というような感じでした。Global Media は中間課題で調べたことや授業で調べるように推奨されていたケーススタディーを活かすことができたので、自分的には時間を十分に使って書きたいことは書き切ることができたかなという印象です。文章全体の構成など大幅な変更ができないため、手書きのエッセイはどうしても拙いかなというように感じてしまうのですが、それに関しては日本語で書いていたとしてもきっと同じ問題を抱えるのであろうと思います。以前にエッセイを書くなどで、しっかりとリーディングをして自分の言葉で文章に起こした範囲などはやはり知識も蓄えられており、書きたい内容がスラスラと浮かんでくるような気がします。エッセイを書いているときは本当に文献を読んで、文章を書いている一人作業なので私は好きにはなれませんが、理解を深めるため第一ステップとして必要不可欠であり、最も効率的な方法なのかとつくづく感じています。

留学生生活を総じて、専門でない分野を一から英語で学ぶということは想像以上に大変でこのような勉強を事前にしておくべきであったという反省は多くありました。特に堅苦しく、イギリスのメディア社会様相を前提知識としているジャーナリズムの分野は理解に苦しみ、勉強したくないな…という気持ちになることも多々ありました(笑)。しかし、学んでいるうちに全てではないものの、興味が強くなった範囲もあり、エッセイが書き終わる頃にはその範囲を英語で説明できるようになっていました。食わず嫌いにならず、まずは知ることから始めてみようということが大切だと思います。

2. 生活の状況

イースター休暇を終え、ニューカッスルも気持ちの良い晴れの日が多くなりました。店のテラス席が多くなったり、

街の中心に誰でも座れるクッションが出現したり、川沿いのキーサイドには人工のビーチのようなものが出現したり、相変わらず面白い街だなというように思われました(笑)。

上記の通り、エッセイとテストに追われていたものの、最後の時間を大切にしたいと、ずっと通っていたインターナショナルカフェ、英会話クラス、後期からたまに参加していた Bachata ダンスのクラスなどに行きました。晴れた気持ちの良い日に地元の家族に海辺に連れてってもらったり、友達とニューカッスルの街で写真を撮りながら散歩したりもしました。友人とカフェやレストランに行って話すことも、これが最後と思うと感慨深いものがありました。実感があるような、ないような、いつでも連絡できると思うと同時にすぐには会えないと考え、いろんな感情と予定で最終月は本当に、あっという間に過ぎていきました。

お世話になった友人たちにメッセージを書きたいと決めていたのでお気に入りのお店で一人一人の友人を思い浮かべながら、カードを選びました。記念日やお祝い事、Farewell の際にメッセージカードを送るのはイギリスの素敵な文化だと私自身、思っています。日本でもある風習かもしれませんが、イギリスのカードのバリエーションは本当にすごいです！ブリティッシュジョークが書かれたものから、ニューカッスルの風景をモチーフにしたイラストなど、各お店に数え切れないほどの種類のカードがあります。友人一人一人の好みや趣味を考えながら、こんなこと言っていたな、話していたな、などと思ひだし、どのカードをプレゼントするか決めるのはとても楽しかったです。

留学生生活を振り返りながら、友人へのメッセージを考えました。この8ヶ月半は決して順風満帆なものではなく、勉強の大変さは勿論、身の回りで辛いことや苦しいことが重なり、きっと20年間の人生で一番、涙を流すことも多かったと思います。自分自身の選択に自信をなくして、このままで大丈夫だろうかと不安になり、周りの人にもたくさん心配をかけてしまいました。留学をやめたい、帰りたいというように思ったことも何度もありました。しかし、日本から応援してくれる友人や家族から言葉をもらったり、同じように留学している学部の人、同じくイギリスで勉強している留学生の友人と励まし合ったりして、本当にたくさんの人との関わりの中でいかに自分が周りの人に支えられているかということを実感しました。「寂しい気持ちがなくなったと言ってきて安心したよ」、「ニューカッスルでの時間を楽しんでくれて本当に良かった！」というイギリスの友人達の言葉にも感謝するばかりです。

空港まで地元の家族が送迎してくれたのですが、当日も別れの実感がなく、本当に自分は日本に帰るのだろうかという気持ちでした。実際に別れてゲートまで行ってようやく、留学が終わるのか、日本に帰るのか、しばらくみんなと会えなくなってしまうのかという実感がひしひしとわいてきて涙が止まりませんでした(笑)。

苦しいときは永遠に感じていた留学も終わると一瞬で、日本に帰ってくると、まるで自分が8ヶ月半、長い夢をみていたかのような感覚になります。思い出は楽しかったことや嬉しかったことを中心に残るので、だからこそ辛いときにどのような感情だったか、困難をどのようにして乗り越えたかといった記憶をしっかりと言葉にして残しておくことは大切だなと思います。

辛かったこと、苦しかったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、自分自身とたくさん向きあった経験一つ一つが今の自分の考え方や価値観に繋がり、必要不可欠なものであったと感じます。これから先も苦勞することはたくさんあるとは思いますが、数々の困難を乗り越えたことは自信にも繋がり、まだまだ頑張れるはずと思わせてくれます。留学中は勿論のこと、渡航する前からお世話になった、たくさんの方への感謝の気持ちを忘れず、これからも前向きにいろんなことに挑戦し続けていければ良いなと思います！

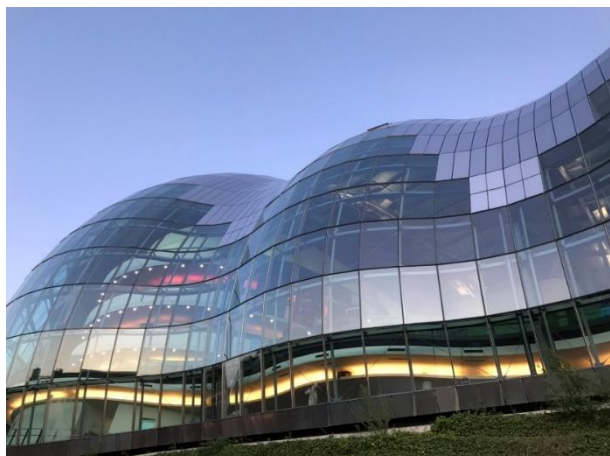
9ヶ月分、私の報告書にお付き合いいただき、ありがとうございました！今後メディアの分野を学ぶ人、ノーザンブリア大に留学する人、イギリスに留学する人、同学部、同大学から留学する人、少しでも多くの人にとって役に立つものとなれば幸いです。

天気の良い日にニューカッスの街を歩きながら撮った写真です。日曜にマーケットがあるキーサイドはニューカッスルでは外せない観光スポットだと思います！



Ouseburn という緑が綺麗なエリアの小道の風景です。





キーサイドでシンボルともいえる建物です。コンサートやライブなどが行われています。

ニューカッスルといえば！というキーサイドで撮った、タインブリッジとミレニアムブリッジのsunset 風景の写真です。ニューカッスルのポストカードに描かれるのは大体、この景色だと思います(笑)。

この日は本当に天気が良く、川と街が綺麗でした。

